

北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画策定委員会

第3回資料【参考資料】

第3回資料【参考資料】

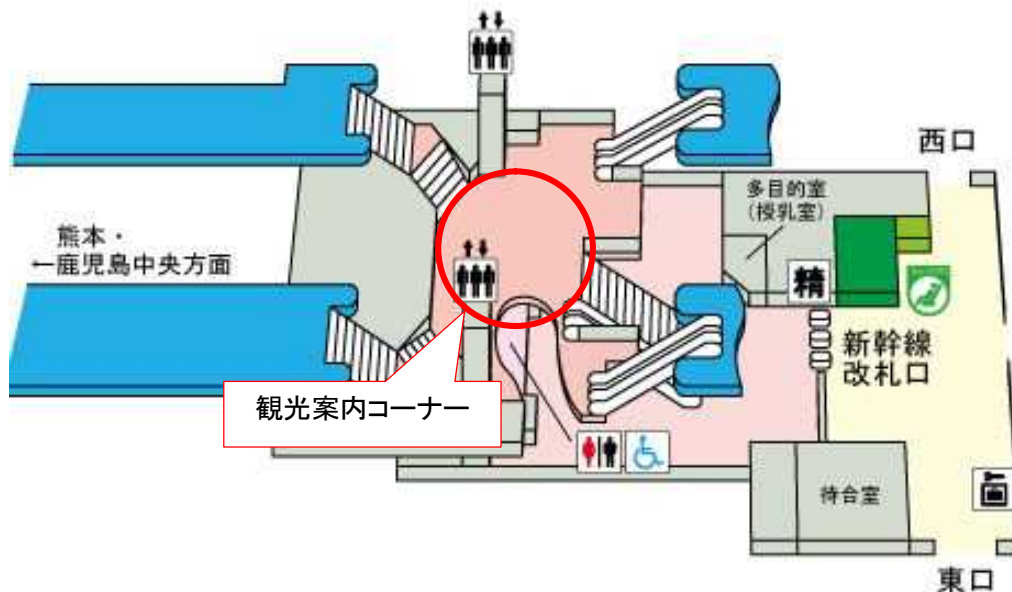
1	情報交流会館の事例	1
2	新高岡駅における情報交流会館の概要	6
3	黒部宇奈月温泉駅における情報交流会館の概要	7
4	道の駅に係る事例	10
5	多目的広場の事例	15
6	駅前広場のレイアウト事例	18
7	金沢～敦賀間の早期開業の状況	21

1 情報交流会館の事例

【事例 1】筑後船小屋駅（福岡県筑後市）

（本編 P 3）

—シンプルでコンパクトな機能整備—



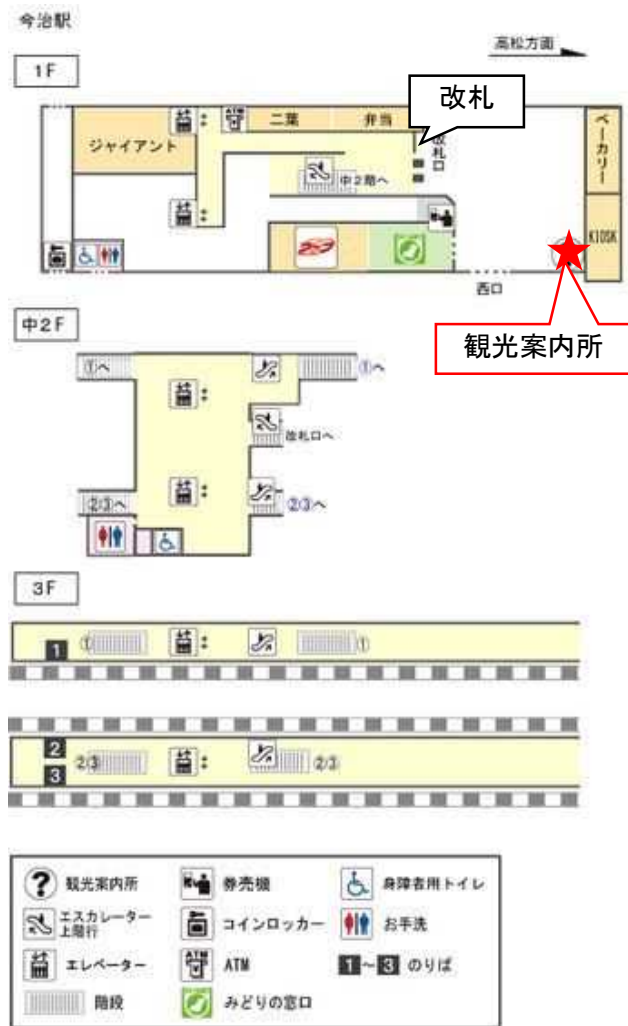
整備主体	筑後市
運営主体	筑後七国商工観光推進協議会(筑後市役所商工観光課)
利用者数	1,370人/日(平成23年 乗降人数)
規模	約15㎡
駐車場	276台(※月極含む)
サービス内容	○観光パンフレットの配置 ○ポスター、観光案内図の展示
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 改札から上り/下りホームへ向かう際の中2階にあたる箇所に観光案内コーナーを設けている。 ➢ コーナーでは、駅から約1キロほどにある船小屋温泉や駅周辺7市町(筑後市・柳川市・大川市・八女市・みやま市・広川町・大木町)の観光情報がディスプレイおよびパンフレットなどにより案内されている。

一駅利用者の動線上に機能を配置一



整備主体	上田市
運営主体	上田駅観光案内所運営委員会 (上田市、千曲市、東御市、須坂市、長和町、坂城町、青木村、筑北村、麻績村)
利用者数	2,821人/日(平成25年度)(※新幹線乗車人数)
規模	約30㎡
駐車場	約400台
サービス内容	○観光情報提供
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 上田駅の新幹線改札を出てまっすぐ進んだ突き当たりに設置。 ➢ 上田・小県地域の4市町村に加え、坂城町、千曲市、須坂市、筑北村、麻績村の9市町村の観光パンフレットを取りそろえ、観光案内を実施

—伝統的工芸品や、その製作に使われる工具・原材料、写真パネルなどを展示—



整備主体	今治市
運営主体	今治地方観光協会
規模	約15㎡(ショーケース2台、職員用スペース)
事業費	不明
駐車場	約200台(その他民間駐車場あり)
サービス内容	○物産・伝統工芸品等をパネルやディスプレイで展示 ○職員による観光案内
配置人員	2名
年間管理費	不明
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ JR 今治駅構内、改札前にある観光案内所。物産・伝統工芸品等をパネルやディスプレイで展示・紹介している。 ➢ また係員が常駐し、利用者のニーズに合わせて、観光情報提供を行っている。

— 模型や映像を活用した観光情報提供 —



整備主体	奈良県
運営主体	斑鳩町観光協会
規模	延床面積：618.21㎡ 建築面積：418.86㎡ (鉄筋コンクリート造2階建て)
事業費	5億2,500万円 (建物：約3億1,700万円、展示：約1億5,000万円、 シンボルオブジェ：約800万円、付帯工事・備品等約4,900万円)
駐車場	小型60台 大型20台
サービス内容	○地域の歴史・文化紹介 ○奈良県の観光情報案内 ○休憩場所の提供 ○地域の交流の場の提供
配置人員	5名(臨時職員2名含む)＋管理者(観光協会事務局長)
年間管理費	約2,400万円(事務局長人件費は含まない)
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 世界文化遺産に指定された法隆寺西院伽藍や法起寺伽藍など、地域の歴史・文化を模型やVTRで紹介している。 ➢ また、これらの施設を中心とした観光ルートを6コース設定し、立体地図とVTR映像で紹介している。 ➢ 休憩場所となる民営の喫茶室併設。 ➢ イベントやセミナーが行える、多目的ホールを備えている。

—市内伝統産業の基幹施設の整備—



1 2 3 常設展示場
 京都の伝統的工芸品74品目約500点を常時展示・販売しています。

4 ギャラリー
 京都の伝統工芸品の粋を展示する博物館仕様のギャラリーです。

5 図書室
 伝統工芸関連書を中心に、専門書から一般書まで、幅広く所蔵。貸出も可能です。

6 イベントルーム
 伝統産業の育成と展示のスペース。展示や実演、体験教室などを行っています。

7 体験教室
 摺型友禅染体験ほか、京都の伝統工芸の技を体験していただくコーナーです。

8 ミュージアムショップ 京紫苑
 ふれあい館ならではの品揃えて、「和の暮らし」の提案をおこなっています。

番号をクリックすると詳細画面が表示されます。

整備主体	京都市
運営主体	(公財) 京都伝統産業交流センター
利用者数	約21.5万人(平成24年度)
規模	建築面積:約1,300㎡
駐車場	163台(※複数施設で共同利用)
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統工芸品の展示(常設/企画) ○実演・販売・体験イベントの実施 ○製作体験 ○伝統工芸に関する図書室/ビデオコーナー
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 京都の町に息づいている美とわざの世界を感じられる、産業と文化と人の出会いの場。 ➢ 伝統工芸品約500点の常設展示、工芸品・職人に着目した企画展示、職人による実演、子供向けの体験教室を実施している。

2 新高岡駅における情報交流会館の概要

(本編P3)

○飛騨・越中・能登を含めた観光に対応するおもてなし環境の整備事業の一環として新幹線利用者に対して観光案内や待合空間等を高架下利便施設として整備している。

【設置目的】

- おもてなし環境の整備事業の一環として観光案内サービスの充実。
- 既存の高岡テクドーム等と一体となって地域の交流機能を強化。

【ターゲット】

- 主に新幹線を利用して地域を訪れる観光客(個人客、団体客、修学旅行者)

【規模】

952㎡ 1階795㎡ 2階157㎡ (観光バス運転手用休憩所、会議室)

施設概要

展示販売PR : 76㎡銅器、漆器、彫刻、和紙の展示販売

案内所 : 73㎡ 展示販売PRフロアと一体化している。案内所施設として案内カウンターを設置

待合室 : 61㎡

テナント: 210㎡ JRに貸与 物品・お土産販売

トイレ : 79㎡

【整備費用】

475,000千円 (自由通路(300㎡)含む)

【管理】

指定管理者 市観光協会



3 黒部宇奈月温泉駅における情報交流会館の概要

(本編P3)

○黒部市を含めたにいかわ観光圏の活性化や黒部市内の来訪者の回遊促進を目的とするフィールドミュージアムの玄関口として黒部市地域観光ギャラリーを整備している。新幹線のみならず北陸自動車道を用いて地域を訪れる観光客も対象としているため、クルマ利用者も利用しやすい駅舎外単独施設している。

【設置目的】

- 黒部市地域観光ギャラリーは、黒部宇奈月温泉駅の周辺整備計画の一環として、観光情報機能や商業機能、休憩・待合・交流機能を担う。
- 展示空間は黒部市を含めた「にいかわ観光圏」の活性化や黒部市内の来訪者の回遊促進

【ターゲット】

- 新幹線や北陸自動車道を利用して地域を訪れる観光客(個人客、団体客、修学旅行客)
- 地域学習・生涯学習のために地域を回遊する目的で訪れる人
- 商用で地域を訪れた人

【規模】

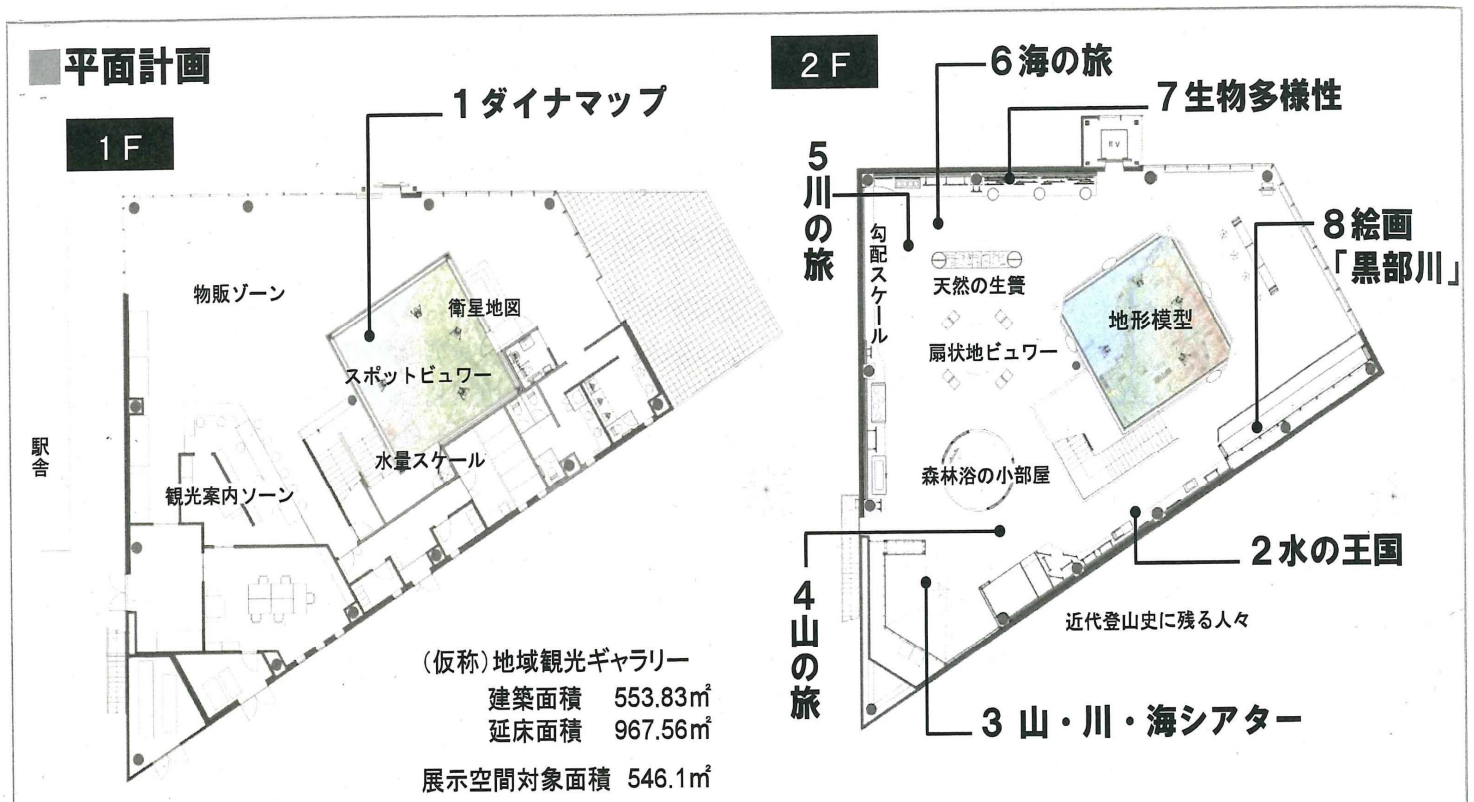
約1,000㎡

【整備費用】

約4.7億円(展示空間費用を含む)



【展示空間のイメージ】



(黒部市行政視察資料より抜粋)

■展示コンセプト

地球を旅するためのミュージアム

フィールドミュージアムを旅すれば地球のダイナミズムが体感できる！日本の姿が実感できる！！

- 地球のダイナミズムがどのように「水の王国」の特徴を作り上げたかを、山・川・海スポットで紹介するとともに、そこで生きる人々の歴史や暮らしを紹介します。

※山・川・海スポット=フィールドミュージアムにおける地球のダイナミズムを実感できるスポットを意味する言葉として使用します。

1 F

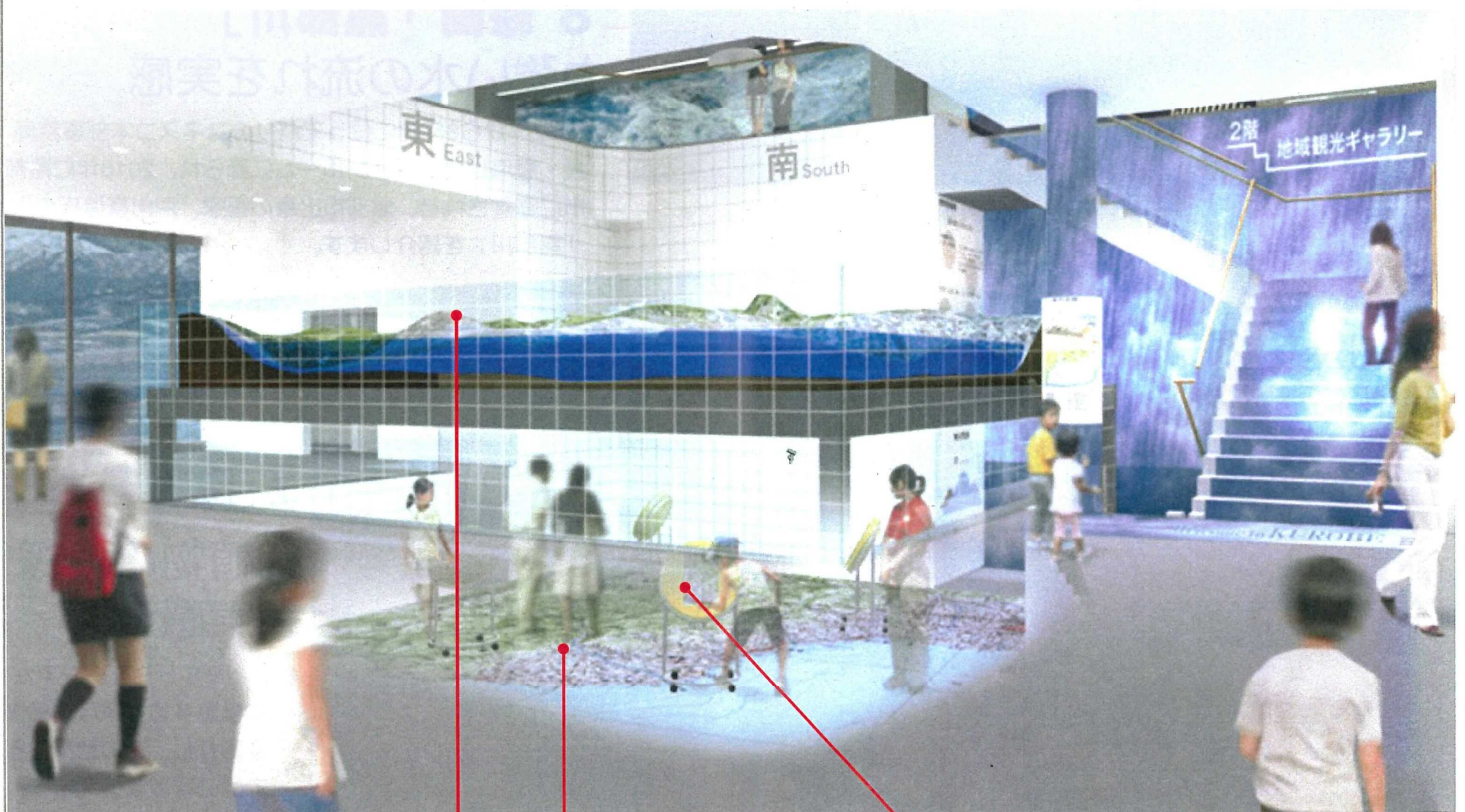


1 ダイナマップ

1階

地球が生んだ高度差4,000メートルの水の王国を実感

- フィールドミュージアムの全体像や広がり、4,000mの高度差を直感的に伝えます。また、情報機器等を用いてフィールドミュージアムの各スポットの情報や地域情報等を提供することで観光客の便宜を図り、地域の人々が地域を再発見するきっかけを提供します。



■地形模型

- 新川地区全域を表す地形模型を中空に設置する。海方向から立山連峰方向の高さを見ることができるようになる。

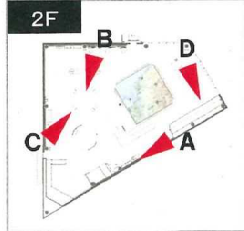
■航空地図

- 新川地区全域を表す航空地図を床面に表す。

■スポットビューワ

- 地図にかざすと、スポットの情報が画面上に現れる装置を設置する。提供するスポット情報は200ヶ所程度とする。

(黒部市行政視察資料より抜粋)



2 水の王国

新川地区には豊かな水資源があることにきづく

●黒部市を含む新川地区の特徴は、水資源の豊かさであることにきづいてもらいます。



3 山・川・海シアター 地球のダイナミズムを実感

●地球の形成の中でフィールドミュージアムの骨格となる地形が生まれ、モンスーン気候の影響を受けた水循環が地形を仕上げたことを伝えます。併せて日本の特徴の総図とも言えるこの地域で日本を知ることができることも伝えます。また、フィールドミュージアムの四季折々の姿をかいまみる事ができる映像も用意します。



8 絵画「黒部川」 力強い水の流れを実感

●2002年から8年間に亘ってパリのユネスコ本部事務局長・専用レセプションルームに飾られ、2010年に黒部市に寄贈された、黒部市出身の画家、戸出喜信氏の大作「黒部川」を紹介します。

4 山の旅 立山・黒部の山スポットや山と人の歴史を実感

●立山・黒部の山岳地帯で見ることができる地球のダイナミックな活動の痕跡や、人と山の歴史を紹介し、山の旅の深め方を伝えます。



6 海の旅

富山湾の海スポットや豊かな水産資源を実感

●富山湾の特性や、海でみられる海スポット、豊かな水産資源を紹介し、日本でも恵まれた海洋環境であることを伝えます。



7 生物多様性 動植物の多様性 を実感

●フィールドミュージアムに棲息する多様な動植物を紹介し、この地域ならではの特徴を伝えます。

5 川の旅

黒部川の川スポットや歴史、水と共に生きる暮らしを実感

●黒部川の特性や、流域で見ることのできる水の流れが作りだした川スポット、川と人の歴史、水と共に生きる暮らしを紹介し、黒部が水の王国であることを伝えます。

地域の観光総合窓口となる「道の駅」

- 地域を訪れた人が最初に訪れるゲートウェイとなり、着地型観光の受入基地として機能する「道の駅」。
- 地域資源のパッケージ化や地域の歴史・文化に触れる機会を提供し、地域の価値・魅力を向上。

「川場田園プラザ」(群馬県川場村)

・人口約4千人の川場村で、観光入込客90万人以上
 ・農産物販売約4.4億円、約70名の雇用創出

○ ビジターセンター機能

・観光協会と連携し、近隣の観光案内や宿泊施設など、地域の観光情報を提供。



ビジターセンター

○ 体験・交流機会の提供

・地域の特産品などの資源を活かし、果物狩りや陶芸などの体験やイベント等により、村民と来訪者の交流の機会を提供



陶芸体験



ブルーベリー狩り

「若狭熊川宿」(福井県若狭町)

・宿場町「熊川宿」の歴史的な町並みを保存するまちづくりと連携し、地域の歴史・文化に触れる機会を提供。
 (かつて鯖が都へ運ばれた「鯖街道」の集積地「熊川宿」の歴史を総合案内)
 ※「熊川宿」と「道の駅」で年間約36万人が来訪



熊川宿の賑わい



熊川宿の歴史的建造物と道の駅

○ 地域資源のパッケージ化

・温泉や資料館、水辺空間、果樹園、農産物や特産品など、地域固有の観光資源を組み合わせる魅力向上。

「道の駅」を入口に、地域の魅力にアクセス可能



温泉



水辺空間



観光資源



果樹園



資料館



地域の農産物



特産品を利用した加工品の提供



夏のイベントでのてっせん踊り



語り部による町案内

地域の特産品を活かした産業振興「道の駅」

- 人口約5千人の南房総市富浦地域(旧富浦町)で、年間来訪者約50万人、南房総エリアへ約4億円の経済波及効果。
- 地域特産品「びわ」を軸にした好循環で、売上高約5億円、地域住民の1%に相当する約60名の雇用を創出。
- 地域の総合窓口として観光資源をパッケージ化し、着地型観光を呼び込み。

「とみうら」(千葉県南房総市)



地域特産品「びわ」を活かしオリジナル商品開発、びわ農家の経営安定



特産のびわ



共同で加工品開発



地方特産品のブランド化
オリジナル商品開発・販売

枇杷関連商品
50種類

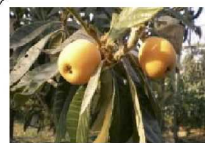


需要安定化
生産農家に波及

地域資源をパッケージ化し、観光ニーズを呼び込み

◆ 観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行代理店へ販売

例)日帰りバスツアー誘致



枇杷狩りの受付



房州うちわ作り体験



関東最大規模の
菜の花畑



いちご狩り体験

地域の様々な観光資源



観光バス立寄り台数
約3000台(9万人)

出典(株)ちば南房総経営状況報告書(第23期)

びわ狩り
イチゴ狩り
レストラン
体験農家
観光名所 等

地域100事業者

・「道の駅」で新たに
60名の雇用を創出
・南房総エリアにおける
経済波及効果 年間 約4億円

災害時に高度な防災機能を発揮する「道の駅」

- 「道の駅」は、停電時でも24時間サービス可能な発電設備、備蓄倉庫、ヘリポートなどを備え、地域の防災拠点化。
- 東日本大震災でも、救命・救急活動、物資集配、住民避難、食料供給などの拠点として機能。

<防災機能を強化した「道の駅」の事例>

「美濃にわか茶屋」(岐阜県美濃市)

- 発災後3日間を想定した非常用電源を整備(食堂、情報提供施設、トイレの利用が可能)
- 災害時は食堂が炊き出し施設として使用(40tの飲料水貯水タンクを設置)



○ 「道の駅」に整備する防災施設の例



非常用発電機



備蓄倉庫



飲料用貯水槽



ヘリポート

<東日本大震災で機能した「道の駅」の事例>

○ 自衛隊の後方支援拠点



「遠野風の丘」
(岩手県遠野市)

○ 住民避難所

- ・ 自家発電により24時間開館し、おにぎり、菓子等を提供



「三本木」
(宮城県大崎市)

○ 被災住民へ食料・日用品の供給

- ・ 震災後、地元農家の出荷により1週間で営業再開
- 町で唯一の食料・日用品販売店



「やまだ」(岩手県山田町)

○ 支援物資集配の拠点

- ・ 全国から届く支援物資の中継地として利用



「そうま」(福島県相馬市)



—地域住民やドライバーの利用を促進—

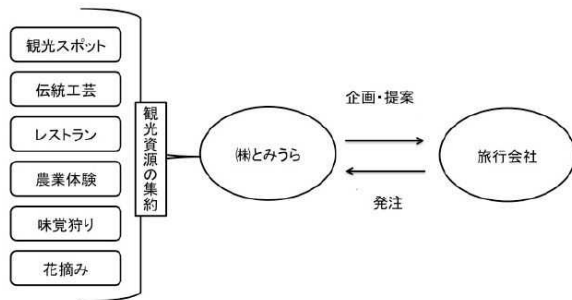


整備主体	国土交通省、旧日和佐町
運営主体	株式会社道の駅日和佐(第3セクター)
規模	建築面積:約1,200㎡(※道の駅全体)
事業費	約15億円(※道の駅全体)
駐車場	小型57台 大型7台 身障者用3台
サービス内容	○県南部の観光情報案内 ○特産品販売所 ○足湯
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 国道 55号線に接する道の駅日和佐は、JR 牟岐線 (阿波室戸シーサイドラン)の日和佐駅とも隣接し、跨線橋の自由通路で結ばれている。 ➢ 鉄道を利用して訪れる観光客等に対する二次交通手段として、道の駅内にてレンタカーサービスを実施している。レンタカーサービスは民間が実施。 ➢ “まちの駅”として位置づけ、地元のとれたての野菜・果物や農林水産加工品販売所や無料で利用できる足湯を設置することで、地域住民やドライバーの憩い・休憩の場としての利用を促進している。

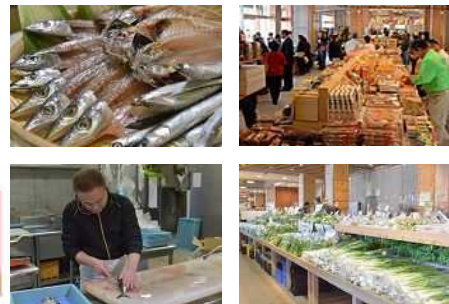
一周辺地域の観光の起点として機能



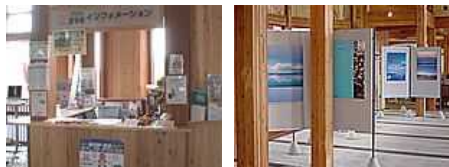
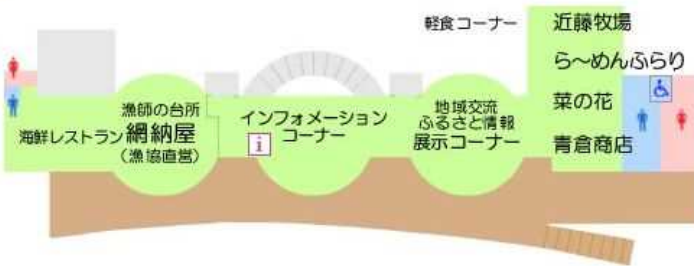
■ 一括受発注システムの概要



1F 直売・物産コーナー



2F 飲食・情報コーナー



整備主体	国土交通省、旧富山町（現南房総市）
運営主体	(株)富楽里とみやま第3セクター
規模	延床面積：1,708㎡（※道の駅全体）
事業費	6億3,659万円
駐車場	（ハイウェイオアシス）小型30台 大型6台 身障者用1台 （道の駅）小型300台 大型20台 身障者用4台
サービス内容	○情報インフォメーションコーナー（市内の観光地や体験（たけのこ狩り、田植え体験、びわ狩り等）の案内や予約） ○直売・物産コーナー（直産の野菜や鮮魚、花、落花生等の販売） ○軽食・情報コーナー（千葉県産の食材を使った飲食店） ○高速バスタップ（上下線各1台）
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地元の南房総で獲れた鮮魚や、生花、野菜等の直売所や飲食コーナーが整備されている。 ➢ 周辺の体験施設をパッケージ化して旅行代理店に売り込む「一括受発注システム」によって、地域全体の観光促進の起点として機能している。 ➢ 東京からの高速バスが運行され、地元から P&R で都心へ通学している人の買物や、観光客のお土産スポットとしても利用されている。

5 多目的広場の事例

【事例 1 1】 鶴沼駅（岐阜県各務原市）

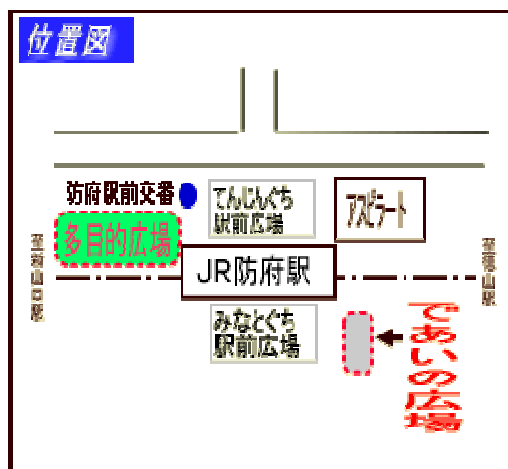
（本編P 5）

一駅利用者、市民の散策の場として、コンパクトな多目的広場を整備一



整備主体	各務原市
運営主体	—
利用者数	1, 228人／日(平成24年 乗車人数)
規模	面積:約700㎡(※ビオトープ、水路部分)
駐車台数	不明(※周辺に民営駐車場がある)
サービス内容	○ビオトープ池(駅前広場中央) ○せせらぎ水路(鉄道沿い) ○休憩用ベンチ
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「誰もがほっとできる駅空間の創出」「賑わいとうるおいが感じられる市民のいこいの広場」「安全・安心の歩行者空間」をコンセプトに、雑木林を思わせる、公園のような駅前広場(約4, 000㎡)として整備。 ➢ 駅の顔としての潤いある景観、駅利用者や市民の憩い・散策の場として利用されている。

—防災機能を備えた地域の憩いの場づくり—



整備主体	防府市
運営主体	—
利用者数	4,073人/日(平成24年 乗車人数)
規模	面積:約3,000㎡
駐車台数	なし(※民営駐車場、駅前再開発ビル駐車場がある)
サービス内容	○憩い・イベントの場 ○災害時の一時的な避難場所
事例の概要	➢ 平常時は子どもたちの遊び場、イベント会場として利用され、災害時には一時避難場所としての活用を想定している。

—緑豊かな駅前広場デザイン—



整備主体	日向市
運営主体	—
利用者数	1,446人/日(平成24年 乗車人数)
規模	面積:約3,200㎡(芝生広場部分)
駐車台数	約100台
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ○芝生広場 ○イベントステージ ○噴水・せせらぎスペース ○散策用の曲線通路
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 駅舎および駅周辺の再整備に、JR、建設コンサルタント、建築家、構造家、土木設計家、デザイナー、都市計画家、有識者などの多くの専門家が関わり、地元の名物をモチーフとしたデザインや地場産材の活用による景観整備を実施。 ➢ 夏祭りやハロウィン、七夕イベントやキャンドルイベント、作品展示など様々なイベントが実施され、イベント数や集客数の増加を実現している。

6 駅前広場のレイアウト事例

(本編P 6)

1) 交流・多目的広場等が一体となった駅前広場

: 駅前広場 : P & R 駐車場

■九州新幹線 新玉名駅				
・ロータリー形式の駅前広場、交流広場、多目的広場、P & R 駐車場が一体的に整備されている。				
諸元	新幹線乗降客数	1, 900人	ICからの距離	10km
	駅前広場面積	32, 100㎡	在来線駅からの距離	2.5km
	P&R 駐車場台数	229台		
平面レイアウト	 <p>新玉名駅周辺の平面レイアウト図。駅前広場（赤枠）はロータリー形式で、調整池、交流広場（P）、多目的広場が配置されている。P&R 駐車場（青枠）も併設されている。</p>		 <p>新玉名駅周辺の空中写真。駅前広場のロータリー構造と周辺の建物、道路が確認できる。</p>	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルなロータリー形式の駅前広場である。 ・乗降場に駅舎から連続したシェルターが整備されている。 ・駅前広場内を通過してP & R 駐車場（無料）にアクセスする動線になっている。 ・駅コンコースに接続して交流広場・多目的広場が配置されている。 			

2) バス・タクシー・一般車の機能が分離された駅前広場

: 駅前広場 : P & R 駐車場

■東北新幹線 新花巻駅				
・ 駅コンコースに環境空間が接続しており、両側に公共交通と一般車ゾーンが配置されている。				
諸元	新幹線乗降客数	1, 986人	ICからの距離	3.5km
	駅前広場面積	13,700㎡	在来線駅からの距離	0.1km
	P&R 駐車場台数	619台		
平面レイアウト				
	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅コンコース前に環境空間広場が整備されている。 ・ 駅前広場内に送迎用無料駐車場が整備されている。 ・ 駅前広場と道路を挟んだ反対街区や駅裏にP & R駐車場（一部有料）が整備されている。 		

3)必要最小限のシンプルな駅前広場

: 駅前広場 : P & R 駐車場

■長野新幹線 安中榛名駅				
・バス、タクシー、一般車乗降場が同じ動線上に配置され、シンプルな駅前広場となっている。				
諸元	新幹線乗降客数	542人	ICからの距離	20km
	駅前広場面積	8,500㎡	在来線駅からの距離	7km
	P&R 駐車場台数	255台		
平面レイアウト				
	特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場内の動線がシンプルでわかりやすい。 ・交通島の緑地が環境空間になっている。(歩行者は利用できない) ・P & R 駐車場 (無料) がまとまっていて利用しやすい ・駅前広場と駐車場のアクセス動線が分離されている。 		

7 金沢～敦賀間早期開業の状況

(以下、福井県北陸新幹線建設促進期成同盟会及び沿線7市町長合同会議資料)

整備新幹線の取扱いについて

平成27年1月14日
政府・与党申合せ

一、基本的な考え方

整備新幹線は、全国的な高速鉄道ネットワークを形成し、国民経済の発展、国民生活領域の拡大、地域の振興に資するものであり、その開業効果をできる限り早期に発揮させることが国民経済上重要である。

北海道新幹線（新青森～新函館北斗間）及び北陸新幹線（長野～金沢間）については、完成・開業時期が近づいており、予定どおりの着実な完成・開業を実現する。

また、北海道新幹線（新函館北斗～札幌間）、北陸新幹線（金沢～敦賀間）及び九州新幹線（武雄温泉～長崎間）については、完成・開業までに長期間を要することとされているが、あらかじめ予定されていた事業費の範囲内で早期かつ集中的な投資を行うことで、その開業効果を早期に発揮させることは、国民経済上大きな意義を持つことから、沿線地方公共団体の最大限の取組を前提に、完成・開業時期の前倒しを図る。

二、各線区の取扱い

○ 北海道新幹線

新青森～新函館北斗間	平成27年度末に完成・開業する。
新函館北斗～札幌間	完成・開業時期を平成47年度から5年前倒しし、平成42年度末の完成・開業を目指す。

○ 北陸新幹線

長野～金沢間	平成27年3月に完成・開業する。
金沢～福井 ^(注1) ～敦賀間	完成・開業時期を平成37年度から3年前倒しし、平成34年度末の完成・開業を目指す ^(注2) 。

(注1) 在来線との乗換利便性を確保し、十分な開業効果をできる限り早期に発揮する観点から、別途与党において、整備が先行している福井駅の早期活用等について、今夏までに検討を行う。

(注2) この区間にはフリーゲージトレインを導入することが予定されているが、フル規格を前提とする整備計画に影響を与えるものではない。

○ 九州新幹線

武雄温泉－長崎間

フリーゲージトレインの技術開発を推進し、完成・開業時期を平成34年度から可能な限り前倒しする。

三、整備財源

北海道新幹線（新函館北斗－札幌間）、北陸新幹線（金沢－敦賀間）及び九州新幹線（武雄温泉－長崎間）の完成・開業時期の前倒しに必要な財源として、これらの区間の貸付料収入を前倒しして活用する。

四、貨物調整金制度の見直し

貨物調整金制度について、並行在来線の経営努力や、JR貨物の完全民営化に向けた進捗状況を踏まえつつ、完全民営化に向けた進捗状況を踏まえたJR貨物の負担による対応の可能性の検討、並行在来線の経営支援の観点からの一般会計による対応、JR三島貨物会社の経営自立支援を目的とする特例業務勘定からの繰入による対応、の3つの視点から見直しを行い、現在整備中の新幹線が全線開業する平成42年度までに、貸付料を財源とせず並行在来線に必要な線路使用料の確実な支払いを確保する新制度へ移行する。新制度に移行する平成43年度以降の貨物調整金相当額の貸付料からの留保は行わない。

五、平成27年度の整備新幹線関係予算については、整備新幹線建設事業費1,600億円を計上し、公共事業関係費755億円を計上する。

六、今後の整備新幹線の取扱いについては、必要に応じ随時見直しを行う。

七、本申合せに抵触しない事項であって従来の整備新幹線に係る申合せに規定されている事項は、依然として有効である。

今後の整備新幹線の取扱いについて

北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）、北陸新幹線（金沢・敦賀間）、九州新幹線（武雄温泉・長崎間）の開業前倒しについては、平成27年1月14日、政府・与党で申合せが行われたところであるが、以下の事項については、今後、与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームにおいて検討を行うこととする。なお、1.については、遅くとも本年夏までに結論を得ることとする。

1. 北陸新幹線（金沢・敦賀間）について、在来線との乗換利便性を確保し、十分な開業効果ができる限り早期に発揮するための方策
 - ① 整備が先行している福井駅の先行開業について検討する。
 - ② 敦賀駅における乗り換え利便の問題の解消策について検討する。
2. 未着工区間の取扱い

平成27年1月14日

自由民主党 政務調査会長

与党整備新幹線建設推進プロジェクトチーム 座長

稲田 朋美

公明党 政務調査会長

石井 啓一

与党整備新幹線建設推進プロジェクトチーム 座長代理

井上 義久

整備スキーム見直しに向けた政府・与党の動き

平成25年5月 与党整備新幹線建設推進プロジェクトチーム（与党PT）による
～平成26年6月 議論（第1回～第13回会合）

7月10日 第14回与党PT（取りまとめ）

15日 与党政策責任者会議で与党PT取りまとめを了承

15～16日 与党PT取りまとめを内閣官房長官、国土交通大臣等へ申し入れ

※与党PT申し入れ 抜粋

I 今後の整備新幹線の取扱いについては、以下のとおりとする。

2. 新規着工区間

(2) 北陸新幹線（金沢～敦賀間）

開業時期を平成37年度から3年前倒しし、平成34年度の開業を目指す。

II 上記を実現するため、年末に向けて以下の課題について検討を行う。

(1) 財源上の課題

①新規着工3区間の貸付料の前倒し活用

②貸付期間の延長

③その他JR九州株売却益の活用を含めた幅広い観点からの安定的な財源の検討

④以上を踏まえた国及び地方の負担のあり方

III IIの課題について引き続き検討を行い、平成27年度予算編成過程で結論を得ることとするが、政府においても、今回の与党PTのとりまとめを踏まえ、政府と与党からなるワーキンググループを設置するなどにより、必要な検討を要請したい。

8月29日 政府・与党申し合わせ

政府・与党申し合せ 抜粋

政府与党からなるワーキンググループを設置し、平成27年度予算編成過程で、適切な結論を得るべく、必要な検討を行っていく

9月24日 第1回整備新幹線に係る政府・与党ワーキンググループ

・開業時期の前倒しについて、今後の進め方を協議

10月21日 第2回整備新幹線に係る政府・与党ワーキンググループ

・新たに貸付料の増額の検討も含め、前倒しに必要な財源確保策を協議

11月19日 第3回整備新幹線に係る政府・与党ワーキンググループ

・新規着工区間の貸付料の前倒し活用額を精査し、活用可能額を上積みするよう努める方針を国交省が明示

・27年度予算編成までに結論を得ることを書面により確認

平成27年

1月8日 第4回整備新幹線に係る政府・与党ワーキンググループ（取りまとめ）

1月14日 政府・与党整備新幹線検討委員会

〃 政府・与党申し合わせ

・敦賀開業の3年前倒しと必要な財源の決定

・福井先行開業、敦賀駅における乗換利便の問題の解消策は、与党PTにおいて、今夏までに検討

・未着工区間の取扱いは、与党PTにおいて、今後検討

〃 平成27年度政府予算案閣議決定